

聖書から忍耐と慰めを学ぶ

ローマ 15 : 4



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年12月4日

降臨節第2主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日、降臨節第2主日は日本キリスト教協議会や日本聖書協会では「バイブル・サンデー」とされています。聖公会手帳を開くと、今日のところには「バイブル・サンデー」と印刷されています。

聖書がなければ、わたしたちはクリスマスを知りませんでした。聖書がなければ、救い主がどのようにしてわたしたちを訪れてくださったかを知ることはできませんでした。

今日の使徒書、ローマの信徒への手紙には「**聖書**」が出て来ました。

「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。」ローマ 15:4

今日はこの言葉「聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができる」——これを大切に心にとめましょう。

聖書はわたしたちに忍耐と慰めと希望をもたらしてくれます。

第1に、聖書はわたしたちに、忍耐をもって取り組むことを教えてくれます。聖書からの励ましがなければ、わたしたちの忍耐は続かず、事がうまく運ばなければ投げ出してしまおうでしょう。

第2に、聖書は神からの慰めを伝えてくれます。もし聖書がな

ければわたしたちは慰めを得ず、心は枯渇してしまうでしょう。

第3に、聖書は神による希望を教えてください。聖書がなければ、わたしたちは前に向かって取り組む力を失い、失望してしまいます。

聖書はわたしたちに、忍耐と慰めと希望をもたらしてくれるのです。

このことは、この手紙の著者パウロ自身が、身をもって経験してきたことに違いありません。

パウロはかつてサウロと言いました。若いときから熱心に聖書を学び、学んだことを実践しようとしていました。その熱心は、彼の回心の前も回心の後も同じです。しかし聖書から何を受け、どのように実践するかは、回心の前後ではまったく違うように思います。

今日は少し想像をたくましくして、回心前のサウロと回心後のパウロで聖書の読み方がどう変わったかを考えてみます。

回心前のサウロにとって、聖書は教訓の書でした。人はどうでなければならないか、信仰者はどうあるべきかを教える律法の書でした。学ぶことにおいてサウロは極めて熱心でした。しかし人に対しては忍耐強くありませんでした。人の不熱心、不真面目、不信仰が許せませんでした。

特に彼が絶対に許せないと思ったのは、ユダヤ教の中に新しく起こった異端です。イエスを神の子、救い主とする一派です。イエスと、イエスを信じる者たちは、平気で安息日の掟を破って治療行為をなす。神は唯一であるのに「イエスが神の子、救い主」とは何事か。

サウロはキリスト教徒を撲滅、抹殺することに駆り立てられました。それに情熱を燃やしました。しかしこれは暗い情熱でした。人を生かすのではなく、人を滅ぼす情熱でした。

そのサウロの姿を、その行動と内面を、イエスをご覧になりました。否定と憎しみと殺意でどろどろになったサウロを、イエスは憐れまれました。イエスは忍耐して、彼を待っておられたのです。

ダマスコ途上でサウロは光に打たれ、イエスの声を聞きました。

「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」

3日の間視力を失い、食べ物も喉を通らずに苦しみ抜いたサウロが知ったのは、自分を見捨てず滅ぼさず、自分のために忍耐して待ち、呼びかけ引き寄せてくださったイエス・キリストでした。

熱心ではあったけれど神の慰めを知らず、また人を慰めることを知らなかったサウロは、イエス・キリストの十字架から溢

れ出る無限の慰めに潤されました。見えなくなっていたサウロの目は、キリストに慰められた涙によって潤され、再び見えるようになりました。

人を責め、破壊することに暗い情熱を傾けていたサウロは、キリストに捕らえられての回心から、人を励まし人を生かそうとする明るい情熱の人パウロに生まれ変わりました。

回心したサウロ（パウロ）は、以前とは違って、忍耐の人となりました。それは、彼のために忍耐してくださったイエスを知ったからです。例えば、彼が創立したコリントの教会とのやり取りの中に、彼の忍耐が窺われます。手紙を書きつつ気持ちが高ぶった場面で、彼はこう語っています。

「今の今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、苦勞して自分の手で稼いでいます。侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉を返しています。」

コリントの信徒への手紙 一 4:11～13

回心したパウロは、聖書の読み方が変わりました。新しく神さまを発見したのです。

第1に、パウロは聖書の中に、忍耐してくださる愛の神を見出しました。神はわたしたちを愛し、わたしたちのために忍耐

して待ち、忍耐してわたしたちを育ててくださる方なのです。

かつては教訓と律法ばかりを受け取っていたのに、今は律法の底にある神の深い愛を知るようになりました。

第2に、彼は聖書の中に、慰めの神を見出しました。神の慰めを受けそれに満たされて、彼も人を慰める人になっていきました。

第3に、彼は聖書の中に、希望の神、希望を与えてくださる神を見出しました。どのような困難を抱えても、神からの希望があるのです。

このクリスマスにわたしたちも見出したい。聖書の中に、忍耐と慰めと希望の神を見出したいと願います。わたしたちを愛して見放さず、待ち続け、働きかけ続けてくださる方を。

「それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。」

祈ります。

神さま、かつてパウロが聖書の中に、忍耐と慰めと希望を見出したように、わたしたちにもそれを見出させてください。忍耐と慰めの神、希望の源であるあなたを知って、忍耐強く信仰

の道を歩むことができるようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン